

# 人権さんだ

3月号

令和3年(2021)

No.504

コロナ禍<sup>か</sup>の中で  
多文化共生社会を考える

《問い合わせ》  
福祉共生部共生社会推進室人権推進課  
TEL : 559-5148 FAX : 562-1294  
E-mail : jinken\_u@city.sanda.lg.jp



新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルスの感染<sup>かんせんかくだい</sup>拡大<sup>わたくし</sup>は、私たちの生活を大きく変化させ、私たちの心の中にまで<sup>えいきょう</sup>影響<sup>あ</sup>を与えています。

今号では、コロナ禍の時代に外国の人々や在留<sup>ざいりゅう</sup>外国人の人々がどのような問題に直面しているのかについて考えてみます。

写真：市内介護福祉施設で働く、ベトナム人スタッフ2名と利用者

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

# マスクに 託した 思い

## 大坂なおみ選手とBLM

コロナ禍の報道と並ぶように私たちの目に飛び込んできたものに「BLM（※1）」運動がありました。この運動は、アメリカでの人種差別事件をきっかけに全世界に広がっていききました。テニスの大坂なおみ選手が、被害にあった黒人の名前を書いたマスクをして試合に登場

していたのもその一つです。

このアメリカから世界に広がったBLM運動のうねりは、日本社会でも知られるようになりましたが、報道がされなくなると、関心が薄くなっている人もいるのではないのでしょうか。大坂なおみ選手はコメン



大坂なおみ選手のマスクに書かれている「アフマド・アーベリー」は、2020年2月23日、ジョギング中に2人の白人から銃撃を受け死亡した黒人男性の名前です。

写真提供 Getty Images 社

トの中で、マスク着用の行動がきっかけとなって、世界中の人々が何が起きているのかを自分で調べ、正確に知ってもらうことを望んでいたといえます。人種差別はアメリカだけの問題ではなく、世界中で起こっていることであり、たった今この時も、毎日どこかで差別を受けている人がいることを知ってほしかったと話しています。

※1 アフリカ系アメリカ人に対する警察の残虐行為をきっかけに、アメリカで始まった人種差別抗議運動

## 国連からのメッセージ

国際人権差別撤廃デーの2020年3月21日、アメリカ在住のアチウメ人種差別に関する国連特別報告者は「世界の国はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）に関する外国人嫌悪の表現に対して、措置を講ずるべきである」という声明を発表しました。その背景にあるのは、新型コロナウイルス感染症に関して、『〇〇ウイルス』のように特定の地名を入れた表現が一部で使用されていることを指しています。それが人種差別と外国人嫌悪に根ざしており、特にアジア系の人々を隔離し、非難する風潮を批判したものでした。

## 在留外国人は 今……

### 在留外国人とコロナ禍

コロナ禍の中で、私たちと一緒に日々を送っている在留外国人は、どのような問題を抱えて生活をしているのでしょうか。

すでに2020年2月半ば辺り

から、ベッドメイキングや通訳ガイドなど、観光関連産業で働く外国人がシフトを減らされたり、また無期限の自宅待機や突然解雇すると言われたなどの事例がありました。これらは、派遣などの間接雇用で働いている外国人の割合が20.4%（※2）と多いことが背景にあると考えられます。

市には、外国人市民の相談窓口として「国際交流プラザ」の「外国人よろず相談」があります。（詳細は3ページをご覧ください）

これまでの相談の中では、コロナ禍により帰国するタイミングを失いそうになり手続きの相談に来た人や、自分自身の健康に不安を感じて相談に来た人、コロナ禍の影響で急に仕事を失った人などの相談がありました。また、自分の国の感染状況の悪化などにより、自国に帰れないなどの事例も発生しています。

※2 厚生労働省による「外国人雇用状況の届出（2019年10月現在）」より





## 毎日の感染者数の報道で…

私たちは、毎日のように「感染者数」という数字を見ています。感染者数の推移や死者の人数などが連日報道される中で、私たちの心は、そのことをどう受け止めているのでしょうか。



2020年の春ごろからインターネットのSNS上で、「感染者の多くは外国人だ」と決めつける書き込みがあり、その内容が「拡散」されていきました。それらの情報には、新型コロナウイルス感染者のほとんどが外国人だという書き込みと共に、それを示すグラフが掲載してありました。しかし、それは厚生労働省などの公的な機関が作成したものではありませんでした。実は、感染拡大当初、厚生労働省は「国籍確認中」の人数も公表していましたが、この人数が、「日本人」に比べ多かったことから、こうした書き込みが広がった

ようです。その後の調査では、「国籍確認中」としていたもののほとんどは日本人でした。医療従事者をはじめ、宅配業者やクラスターが発生した場所に関係する住民への誹謗中傷など、心ない事案が多く発生したのと同じように、在留外国人に対しても、厳しい非難の声が飛び交う状況が見られました。

このことは、人々の不安な気持ちから、正しくない情報が信じられ、「拡散」されていく現状があることを示しているのではないのでしょうか。

感染者数は、厚生労働省のホームページで確認することが出来ます。（国籍は公表しない情報となっています。）



## 外国人よるず相談

日常生活で分からないことや、困っていることなどの相談に、お気軽にご利用ください。必要に応じて専門機関も紹介します。

《日時》毎月第2水曜・第4土曜  
10時30分から12時30分

《場所》まちづくり協働センター 国際交流プラザ

《対応言語》日本語、中国語、英語

※その他の言語は事前に要相談

《問い合わせ》

TEL 559-5164 FAX 559-5173

10時～17時(12時30分～13時30分を除く)

※火曜は定休日になります。



## 後編 集

新型コロナウイルス

感染症の蔓延は、私たちが自分自身のこ

ととして、これまでの生活を見直す機会になりました。コロナ差別は、私たちがこれまで取り組んできた部落差別や外国人差別、障害者差別をはじめさまざまな差別やいじめと、根本のところ共通するものを持っています。それは、「自分たちとは違う」という思いから、不安や恐れが生じ、その対象を自分の目の前から「排除」し、見えないようにすることで、安心感を得ようとする心理状況とも言えるでしょう。

コロナ禍の前に私たちがめざしていた「多文化共生社会」への思いや取り組みは、今後も全く変わるものではありません。そのためには、あらゆる差別を許さず、感染症と共存していく社会を作らなければなりません。

また、私たちはネット上で大量の情報を得ることが出来ますが、それら全てが正しい情報ではありません。不正確な情報拡散や、特定の個人を攻撃したり誹謗中傷したりすることがあってはなりません。情報を正しく知り行動することが、差別を見抜き、差別をしない生き方につながるのではないのでしょうか。

## 令和2年度 人権標語・ポスター受賞作品



ゆりのき台小学校 4年  
近藤 芽唯 さん

● マスクでも  
心の笑顔  
忘れずに  
● 弥生が丘  
安田 さゆり さん

## 人権に関する総合相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約)

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)  
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員会による定例人権相談(予約)

TEL 559-5148 FAX 562-1294  
《次回相談日》3月25日(木)13時～16時

### 「ウイルスより怖いもの」



けやき台小学校 5年  
みねもと としき  
峰本 斗稀 さん

## 人権 作文

### 見ようとしないう人、 見せてくるネット

三田学園高等学校1年 北直樹 さん

私は11月18日に在日コリアン3世の方お二人、ニューカマー(※1)の方お一人の計3名の方々の講演会を聞きました。講演会を聞いて、中学の時の知識を土台に、より深く在日外国人、主に在日コリアンについて知ることができました。講演会後に、自分なりに在日コリアンについてインターネットで調べると、「在日が日本の治安を乱す」といった内容のサイトが上位検索欄の3つ目に表示されていたり、在日コリアンや韓国人の人が加害者となった事件ばかり出てきました。もちろんそうでないサイトや差別について言及されたものもありましたが、中学時代に先生方から学んだ、検索サイトでの検索結果から見えてくる在

日問題に関する状況は、この2年間でも改善されていることはないように見えました。こんなにも身近に差別が存在し、まだ変わりきることがない状況に憤りを感じました。また、この問題についての正しく、より詳しい情報はネットだけでは当てにならないとも思いました。そこで、未だなくならない差別について、なぜ考えられないのかについて自分なりに考えたことを書くかと思っています。まず初めに、身近な人や身の回りに関係がないと思い、差別に目を向けようとしないう人があるということです。講演会後に友達と話をしていると、「今時そんな差別なんてもうないんじゃないの?」と言われてきました。しかし私は、自分の経験を

語る講演者の方々を見て、私は友達が言っていたようには思えませんでした。関心の低い人が在日コリアンの方々の声に耳を傾けなければ、偏見や差別意識を持った人たちに社会の雰囲気形成されてしまうのではないかと思います。

次に、日本としての意識の低さを挙げたいと思います。少し話は変わりますが、SDGs(※2)の17のゴールの中の10個目に挙げられている「人や国の不平等をなくそう」の中の内容はまさに在日外国人の問題を含んでいると思います。しかし、2016年5月20日「SDGs推進本部会合」の第1回目で挙げられている項目の中に、女性問題、障害者問題、子どもの貧困問題などがありました。在日外国人への取り組みは示されていませんでした。初めに挙げた「人々の関心の低さ」と関わることだと思えますが、目に見えにくく差別に対し、日本としてもつと

意欲的に目を向ける必要があるのではないかと思います。

最後に、私たちができることについてです。問題のあるサイトがあることを知り、偏見を持っている人や知識がない人に「正しい情報」を伝え、社会全体が在日コリアン、在日外国人への関心が高まるようになればと思います。私自身、在日コリアンの問題について「見ているつもり」でした。しかし、今回の講演会の中で、自身の体験を涙ながらに話す姿を見て、自分がかが分かりました。本当の意味で目を向けることは自ら行動を起こし、問題解決に取り組むことであると思います。そのためにも、私自身がきちんとした情報を収集し、私のように「見ているようで見えない」人にも正しい向き合い方を共有できるように、在日コリアン、在日外国人に関する問題に関心を持ち続けることが、私たちができることの第一歩だと思っています。



### 「(仮称)三田市人と人の共生条例」の策定に向けて

すべての人が自分らしく生きやすい社会の実現に向け、条例策定に向けての意見交換を行っています。第7回懇話会は、3月19日(金)10時30分～開催予定で、傍聴可能です。手話通訳・要約筆記申し込みは3月5日(金)まで。詳細は人権推進課まで。

※1 1980年代以降に日本へ渡り長期滞在する外国人

※2 2015年の国連サミットで採択。国連加盟193か国が、2016年、2030年の15年間で達成するために掲げた、より良い世界をめざす国際目標。